

近隣施設をともなう小中学校の統廃合

芝浦工業大学デザイン工学部
デザイン工学科

池谷 星斗



【設計主旨】

少子化に伴い、児童・生徒数が減少するとともに多くの学校が設備を持って余している。こうした状況の中で小中学校の統廃合による小中一貫教育が全国各地で始まっている。本研究では小学校と中学校ならびに近隣施設を合築することによりどのような教育空間ができるか、設計を通して検討した。学校と近隣施設はスロープやバッファゾーンによってエリア分けをした。学校全体をめぐるスロープは各エリアの境界線となりつつも、上下階の差を曖昧にし、異学年同士の交流を促す。そしてスロープをファサードに表現することで建物全体に統一感を生み出した。生徒、教師、近隣施設利用者の玄関となる学校の中心部にはロンドラを設けた。ロンドラには屋根や周囲のルーバーから木漏れ日のような影が落ちる。季節や時間によって変化する木漏れ日に合わせ、人々の居場所も変わるような動きのある空間とした。

【推薦のことは】

芝浦工業大学 教授 前田英寿
池谷星斗君の卒業制作は、近隣施設を併設する小中学校の統廃合計画である。少子化、財政逼迫、地縁崩壊など、公共建築を巡る課題は広く深い。池谷君はこれらに真摯に向き合い、負と負の積が正になるように、複数の課題を相乗的に解き、独特な建築デザインに昇華した。最近の特徴的事例を分析した後、首都圏郊外の実在施設を参照して、生徒数などの設計条件を合理的に設定している。低・中・高各学年の教室グルーピング、学校教育部分と一般公開部分の分離と結合、教室など目的空間と廊下など共用空間の配列など、複合施設に求められる高度な条件をひとつずつ適切に満たしている。螺旋状の8の字平面形とその内側の中庭、全ての交通を結節する中央円形吹き抜け（ロンドラ）、木製の日除け格子による木陰のイメージなど、柔らかく質感のある有機的なデザインで全体を統合している。以上を表現する図面と模型が秀逸である。

1996年 埼玉県出身
2015年 埼玉県立蕨高等学校 卒業
2019年 芝浦工業大学 デザイン工学部
デザイン工学科 都市デザイン研究室 卒業
現在 住友林業株式会社

【作品データ】

| | |
|-------|-----------|
| 建物用途 | 小中学校兼近隣施設 |
| 敷地所在地 | 千葉県柏市 |

【制作データ】

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 作品総点数 | 模型2点 図面19枚 |
| 制作期間 | 構想 - 6か月 制作 - 4週間 |
| 主な模型材料 | シナベニヤ (リビングヒンジ) バルサ材、檜棒、MDF |

